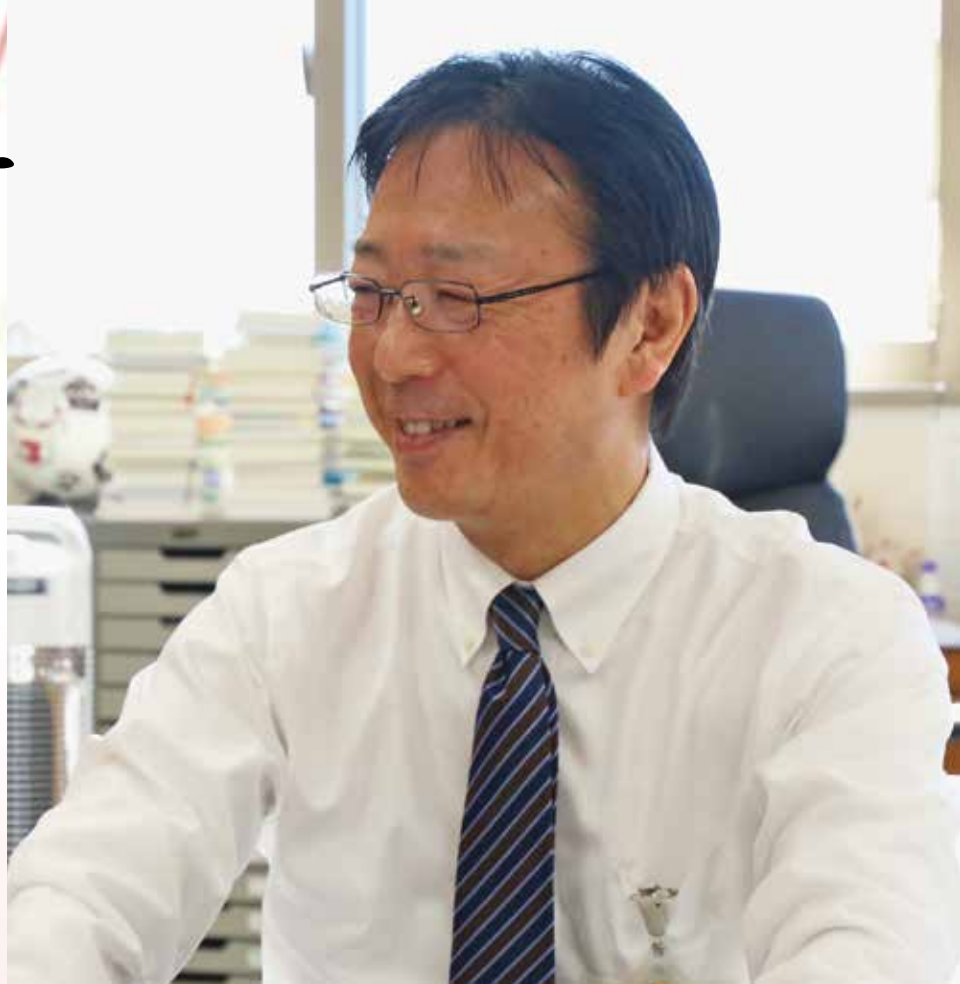


新たななる 船出



新春インタビュー

渡部 修 市長



昨年を振り返って

昨年は長野県駒ヶ根市との友好都市提携50周年を迎え、次の時代に向けて両市の絆を深めることができました。また、スポーツの分野では「全日本中学校陸上競技選手権大会」での中学生たちの活躍や「しずおか市町対抗駅伝」における2年連続5位入賞などうれしいニュースがたくさんありました。

加えて、全国で軽トラ市を開催する団体が磐田に集結し、各地の特産品が並んだ「全国軽トラ市 in いわた」の開催など、前日に行われたサミットを含め、市を盛り上げるイベントも数多く行われました。

これらの素晴らしい出来事は、決して偶然ではなく、市民の皆さんがコ

ツコツと努力を積み重ね、市民力を向上させてきたことが結果となって表れたと思っています。

今年の位置付け

リーマンショック、そして東日本大震災以降の日本の社会は、ICTをはじめとする急速な科学技術の発展や少子高齢・人口減少社会への突入などにより、大きな転換期を迎えています。この大きな変化の中で、私たちは課題を先送りせず、次の時代にしつかりとバトンタッチできる仕組みや制度を作る責任があります。市長に就任してからこれまで約8年半は、財政の立て直しをはじめ、待機児童ゼロやデマンド型乗合タクシーの導入、津波避難タワーや海岸堤防の整備などに取り組み、

厳しい時代を乗り越えるための基礎づくりを行ってきました。そしていよいよ船出をする年が平成30年です。

まちづくりは人づくり

私はこれまで「まちづくりは人づくり、人が成長すればまちは豊かになる」という信念で市政に携わってきました。「人」とは、市職員だけでなく、地域に関わる全ての人のことです。今年交流センターを中心とし、市民自らが主体となった地域づくりをさらに支援していきたいと思っています。地域の役に立ちたいと思う方が、気持ちよく活動できるための手助けをしていきたいです。

磐田市に愛着を持って

柔軟な発想と創意工夫

を生かすため、若者たちがまちづくりに積極的に関わっています。高校生たちの提案で、昨年はJR磐田駅北口広場に「しっぺいイルミネーション」や「しっぺいしあわせのベンチ」を設置することができました。

若者がまちづくりに関わることで磐田に愛着を持ち「やっぱり磐田に住みたい」と思ってもらえたらうれしいです。このように「急がば回れ」でコツコツとやっていくことも、人口減少という課題の解消には必要だと思っています。

未来ある若者へ

幸せの感じ方は人それぞれですが、今つらい、苦しいと思っている若者に「頑張って生きることが、幸せにつながるんだ

よ」と伝えたいです。生きていく上で壁が何もない人生なんて私はないと思います。しかし、その壁を乗り越えることで、人は幸せを実感できるのだと思います。ぜひ、人生のページにさまざまな経験を刻み、幸せな人生を歩んでほしいです。

市民の皆さんへ

磐田市はまだまだ足りないところがあるかもしれないところがあるかもしれませんが、新東名スマートインターチェンジやJR新駅、(仮称)子ども図書館などの整備を進め、「防災・福祉・子育て・教育」などの事業を順序良く、バランス良く、市民に寄り添いながら行っていきます。その結果、一人でも多くの市民が「磐田っていいな」と思っていただけのような

市を目指し、これからも頑張っていきます。市民の皆さんの「当たり前」の生活が続くように、そして災害などがなく、平穏な日々が続く、今年の大みそかを迎えた時に「良い一年だったね」と振り返られるように、

健康で元気に暮らしてほしいというのが私の最大の願いです。今年^{いぬ}は戊午年で「しっぺい」の年でもあります。市民の皆さんが幸せに暮らせるように、しっぺいと一緒^{いぬ}に全力で取り組んでいきます。

